



## さあ、答え合わせをしよう！

## Vol.69 調べてみよう～住①

※ココを見てね! ▶ 調べてみよう～生活文化「住(じゅう)」

1. いまのところ、日本最古とされる2万年前の住居(じゅうきょ)は、次のうち、どの遺跡からみつけられましたか？

正解:②神奈川県(かながわけん)の田名向原遺跡(たなむかいはらいせき)

この質問(しつもん)は、「調べてみよう～住(じゅう)」のコーナーを読めばすぐにわかりましたね。また、「行ってみよう～遺跡紹介」で、答えの候補(こうほ)を一つずつ調べてもわかりましたよ。正解は、②神奈川県(かながわけん)の田名向原遺跡(たなむかいはらいせき)。この遺跡(いせき)からは、約3,000点もの石器(せっき)がみつかるなど、日本列島(れっとう)の旧石器時代(きゅうせっきじだい)の生活を知る大きな手がかりとなりました。静岡県(しずおかけん)の登呂遺跡(とろいせき)と佐賀県(さがけん)の吉野ヶ里遺跡(よしのがりいせき)は、いずれも弥生時代(やよいじだい)の集落跡(しゅうらくあと)です。

2. 縄文時代から古墳時代に使われた建物には、半地下式の「たて穴建物」と、地上式の「ほったて柱建物」の2種類あります。「ほったて柱建物」のなかで、住居(じゅうきょ)にも使われたのは、次のうち どちらですか？

正解:②高床式建物(たかゆかしきたてもの)

遺跡(いせき)を発掘(はっくつ)しても、みつかるのは柱を埋(う)めた穴(あな)だけです。だから、研究者(けんきゅうしゃ)たちは、どんな建物だったのかをいろんな見方と条件(じょうけん)から調査(ちょうさ)します。正解は②。高床式建物(たかゆかしきたてもの)は、湿気対策(しっけたいさくさく)や虫・動物の侵入(しんにゅう)を防(ふせ)ぐこともできるとあって、倉庫(そうこ)のほか、住居(じゅうきょ)や儀式(ぎしき)などを行う大切な場としても使われたと考えられています。日本の住居(じゅうきょ)の多くは高床式(たかゆかしき)であるということは、縄文時代(じょうもんじだい)に開発(かいはつ)された生活の知恵(ちえ)が、何千年も後の現代(げんだい)の住まいの基礎(きそ)となっていることがわかりますね。ほんとうにスゴイ。あっぱれ、縄文人(じょうもんじん)！

3. 4世紀の終わりごろには、朝鮮半島から、伝統的(でんとうてき)な暖房設備(だんぼうせつび)のあるたて穴建物が伝わり、渡来人(とらいじん)が住んでいました。この暖房設備を何と言いますか？

正解:②オンドル

「コンドル」は、鳥(とり)の名前。「ハンドル」は、車や乗り物、機械(きかい)などの取っ手、握(にぎり)、つまみ…など。となると、残(のこ)る答えは1つ。正解は、②オンドルです。これは、朝鮮半島(ちょうせんはんとう)や中国の東北部にみられる伝統的(でんとうてき)な暖房設備(だんぼうせつび)の名前。床(ゆか)を一段(いちだん)低(ひく)くした台所(だいどころ)で、かまどの火をたくと、その暖かい煙(けむり)が家の床下(ゆかした)をとって、最後(さいご)には煙突(えんとつ)から出ていくというシステムです。床(ゆか)に熱(ねつ)が伝わるので暖(あたた)かく、床(ゆか)を歩くのも、座(すわ)るのも、また寝(ね)るときも快適(かいてき)です。もう、わかったかな？ 現代(げんだい)の「床暖房(ゆかだんぼう)」的な暖房設備(だんぼうせつび)だったのです。